

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

ア 学習指導

- ① 教科の到達目標を明確にし、教科主任会及び教科会の開催による教科内や教科間の連携を深め、授業内容や方法の工夫・改善、授業時数の確保や家庭学習の促進、指導と評価の改善、教材・授業内容・定期考査問題の共通化、ICT機器や生徒一人1台端末の活用や探究的学習による授業改善、コミュニケーションやプレゼンテーション能力の向上に向けた取組など、確実な学力の向上を目指す学習指導を行った。
- ② 土曜授業、習熟度別授業（数学、英語）、進学対策の選択科目、国公立大学進学対応クラスの設置、大学入学共通テスト本番と同じ時程で実施した模試など、生徒の理解度や目的に応じた指導を行い、進学に向けた学力向上を目指す学習指導を進めた。
- ③ 数値目標である、自主学習室平均利用人数（1日当たり）は65人（昨年度60人、一昨年度55人）と、全学年にわたり多くの生徒が利用するとともに、定期考査前には全教室を開放し自学自習を促すなど、主体的な学習の習慣が定着してきた。大学入学共通テストの平均点が前年度を下回ったこともあり。大学入学共通テスト得点率60%以上の人数は卒業生数の65.5%（昨年度79.9%）にあたる220人（昨年度278人）と昨年度を下回った。長期休業中の講習講座延べ日数は326日（昨年度320日）と、昨年度と同じ程度講座数を開講した。全学年全クラスで始業前の朝学習を実施し、自学自習の習慣が定着し、生徒の学力向上に結びついた。

イ 進路指導

- ① キャリア教育の全体計画に基づき、進路部と学年が連携し、将来設計に基づいた計画的・組織的な進路指導を行った。新型コロナウイルス感染症による制限もなく、例年行っている進路行事や面談等を通常どおり実施することができた。これまでの進学実績の向上が良き伝統となり、早い段階から進路意識を高めるホームルーム活動での指導などにより、キャリア教育を充実させた。
- ② 教科主任会及び教科会の定期的な開催により、教科指導及び進学指導の実践力を高めるとともに、模試分析結果を基にした全教員参加の進路研修会を年間4回開催し、確実な学力の向上と目標大学合格に向けた進路指導の取組を、学校全体が一体となり組織的に行えるよう進めた。
- ③ 合格実績としては、国公立大学は26人（昨年度27人）と昨年度と同程度だったが、早慶上理は48人（昨年度40人）と昨年度より若干増加した。志願者数増加の影響を受けた難関私立大学（GMARCH）は213人（昨年度345人）と昨年度を大きく下回る合格者数であった。しかしながら、文京高校での学びが国公立大学及び難関私立大学合格に結びつくという文京スタンダードは定着している。

ウ 生活指導

- ① 「規律ある自由」の精神を正しく理解させ、学校生活のあらゆる場や機会において、規範意識を高め、自分で判断し決定し実行する自己指導能力を高める指導を行った。遅刻防止指導・身だしなみ指導を行うとともに、集団生活におけるルール、マナー、モラルを身に付けさせ、自律的な生活態度とお互いを尊重する態度の育成を進めた。
- ② 体罰根絶、いじめの未然防止・早期発見・早期対応・こころのアンケートを常時記入できるようにするなど、人権尊重・自殺の未然防止の教育を推進した。
- ③ セーフティ教室の実施などを通して、生命にかかわる事故の未然防止や予防的指導の観点で、SNSの正しい利用、薬物乱用防止、問題行動防止、犯罪被害防止、交通安全指導を充実させ、大きな事故や事件は発生しなかった。また、毎日の登校指導において、自転車通学におけるヘルメット着用に向けた指導も継続している。

## エ 特別活動・部活動

- ① 2年沖縄修学旅行も、万全な準備と生徒の自覚ある行動により、感染者もなく無事実施できた。生徒自治会や行事実行委員会等の活動を支援し、体育祭や文化祭、球技大会などの運営及び学校説明会の司会進行等を生徒に任せるなど、集団や社会の一員としての自覚と行動力、社会の発展に貢献しようとする自主的・実践的な態度を育成した。
- ② 本校が目指す「文武両道」の精神のもと、学習指導要領において学校教育の一環として位置付けられている部活動の教育的意義を理解させ、生徒の自主的・自発的な活動を支援し、質の高い活動を行った。
- ③ 数値目標として掲げた関東大会レベル以上出場部活動は陸上競技部の1部（昨年度1部）となった。高体連・高文連主催の大会ではないが、チアリーディング部及び生物部が全国大会に出場した。各部活動が高い目標の実現に向け工夫して練習に取り組んでいる。

## オ 健康・安全

- ① 新型コロナウイルス感染症及びインフルエンザに対する感染症対策は、継続して取り組んできたが、インフルエンザの変異株の流行により、第2学年3日間学年閉鎖をする必要が生じた。早めに学年閉鎖の判断を下したため、他の学年への感染拡大は無かった。また、重症化していない生徒を対象に、学びを止めないようオンライン授業を実施した。
- ② 教育相談委員会を年間6回（昨年度6回）開催し、スクールカウンセラー2名を活用した教育相談体制の充実を図り、こころのアンケートを常時実施するなど、生徒一人ひとりに応じたきめ細かい指導を組織的に行うとともに、学校不適応の未然防止や自殺予防に向けた取組を定着させた。
- ③ 防災訓練を含む避難訓練を年間4回実施し、災害に対する自助の力と共助の精神を育むための防災教育を進めた。また、保健講話も予定どおり実施することができた。

## カ 募集・広報活動

- ① 入学者選抜の応募倍率の更なる向上と不本意入学の防止を図るため、積極的に情報発信をし、学校見学会や学校説明会の1回あたりの人数を拡大し実施回数を増やすなど開催方法を工夫した結果、学校説明会の来場者延べ人数は8,158人（昨年度6,278人）と昨年度を大きく上回った。
- ② ホームページの更新を迅速かつ定期的に行ったが、年間252回（昨年度243回）と昨年度を若干上回った。
- ③ 入学者選抜の応募倍率は、中進対倍率が1.13倍（昨年度1.12倍）、推薦に基づく選抜では2.71倍（昨年度2.38倍）、学力検査に基づく選抜では1.34倍（昨年度1.34倍）と、推薦入試では若干倍率が向上したが、学力選抜においては向上することができなかった。

## キ 学校経営・組織体制

- ① 企画調整会議を中心とした学校経営を行い、管理運営規程に基づく学校運営を徹底し、組織的な業務遂行と学校運営を進め、諸課題の解決に向け組織的に取り組んだ。
- ② 経営企画室との連絡・調整・連携を強化し、迅速かつ効率的な業務を遂行し、事業の充実と推進に取り組んだ。
- ③ 例年厳しい配付予算を計画的かつ円滑に執行し、スムーズで無駄のない学校経営を行った。

## (2) 重点目標への取組と自己評価

### ① 【学習指導】

・土曜授業、習熟度別授業（数学、英語）、進学対策の選択科目、国公立大学進学対応クラスの設定など、生徒の習熟度や理解、進路に応じた教育課程を編成し、進学校として進学に向けた学力向上を図る指導を充実させた。

・授業においては、可能な限り、授業時数を確保し、大学入学共通テスト等に対応した授業内容や授業方法を工夫し、生徒の理解度や目的に応じた適切な内容・負荷・スピードによる指導を行うとともに、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICT機器や生徒一人1台端末の活用や、探究的学習に取り組み、生徒の学びの質を高める指導を進めた。

・全学年全クラスで始業前の朝学習を毎日実施するとともに、放課後等の授業時間以外での講習や夏期・冬期講習などの受験指導も充実させた。自主学习室、図書館、放課後の教室などで学習する生徒が増加するなど、授業時間以外での主体的な学習の習慣が定着し、進学に向けた学力の向上を図る学習指導を充実させることができた。

・教科主任会及び教科会を定期的に開催し、授業、家庭学習、補習・講習などの内容や方法を調整し、学校全体で組織的に学力向上に向けた学習指導の推進を図った。

## ② 【進路指導】

・3年間を見通したキャリア教育を推進し、組織的・計画的に将来設計に基づく進路指導を進め、伝統ある進学校として進学指導を一層充実させ、国公立大学や難関私立大学への現役合格者数の増加など、進学実績の向上を目指し取り組んだ。

・全教員悉皆で年間4回実施している進路研修会を活用するなど、模試分析等による生徒の学力診断結果を教科内及び教科間で検証し、進路目標実現に向けた指導の改善・充実に結び付けた。

・大学入学共通テスト得点率60%以上の人数は卒業生数の65.5%（昨年度79.2%）にあたる220人（昨年度278人）と昨年度を大きく下回った。大学入学共通テスト後の受験指導も充実させ、国公立大学26人（目標値30人）と目標値には届かなかったが、早慶上理50人（同50人）と目標値を達成できた。志望者数の増加の影響を受け、難関私立大学（GMARCH）は220人（同345人）と目標値を大きく下回る合格者数であったが、文京高校での学びが国公立大学や難関私立大学合格に結びつくということが引き続き証明することができた。

## ③ 【生活指導】

・「規律ある自由」の精神を正しく理解させ、学校生活のあらゆる場や機会において自己指導能力、自己肯定感の育成を図り、生徒の規範意識や人間性を高め、文京生であることへの自覚と誇りをもたせ、自律的な態度や行動を育成する指導を行った。

・数値目標として掲げた1日当たりのクラスの平均遅刻人数は、始業前の朝学習が定着していることもあり、0.3人（昨年度0.3人）と昨年度と同様に少ない数であった。

・セーフティ教室、スクアード・ストレイトなどの生活指導行事を実施するとともに、服装指導等、事故や問題行動等の未然防止や予防的指導の観点で指導を充実させ、大きな事故や問題行動等はなかったが、登下校中に女生徒2名が痴漢被害にあってしまった。

・令和6年度から全ての都立学校において自転車通学におけるヘルメット着用を求めるという東京都教育委員会の方針を受け、毎朝の登校指導時にヘルメット着用指導を行っている。

## (3) 「今年度の数値目標」の実績

[ ]内は令和6年度実績

①長期休業中の講習講座延べ日数300日以上

326日 [320日]

②自主学习室平均利用人数（1日当たり）60人以上

65人 [60人]

③大学入学共通テスト得点率60%以上の人数270人以上

220人 [270人]

④国公立大学現役合格者数40人以上

26人 [27人]

⑤難関私立大学現役合格者（早慶上理、ICU）45人以上

50人 [40人]

⑥難関私立大学現役合格者（GMARCH）350人以上

213人 [345人]

⑦現役大学進学率90%以上

85.1% [92%]

⑧クラス平均遅刻人数（1日当たり）0.3人以下

- 0. 3人 [0. 3人]
- ⑧1年生部活動加入率95%以上  
94% [92%]
- ⑨関東大会レベル以上出場部活動3部以上  
3部 [1部]
- ⑩図書館の年間貸し出し冊数3000冊以上  
2007冊 [2430冊]
- ⑪ホームページ年間更新回数260回以上  
252回 [243回]
- ⑫学校説明会の来場者延べ人数6500人以上  
8158人 [6278人]
- ⑬入学者選抜応募倍率（学力検査）1.6倍以上  
1.34倍 [1.34倍]

## 2 次年度以降の課題と対応策

### (1) 学習指導

大学入学共通テスト等に対応した授業内容や授業方法を工夫し、生徒の理解度や目的に応じた適切な内容・負荷・スピードによる学習指導を行い、進学に向けた学力の向上を図る指導を一層充実させる。教科主任会及び教科会を定期的で開催し、ICT機器や生徒一人1台端末の活用を含め、教科内での指導内容や指導方法の共有化を図るとともに、教科間の連携を深め組織的な教科横断的な指導体制を構築し、意図的・計画的に学習指導を進めていく。自主学习室の利用拡大や進学対策講習の充実を図るなど、授業時間以外での生徒の主体的な学習を支援する。

### (2) 進路指導

進学校としての進学指導を一層充実させ、国公立大学や難関私立大学への現役合格者数の更なる増加など、進学実績の向上を目指す。文京高校での学びが難関上位校合格に結びつくという、文京スタンダードを一層定着させる。年間3回の進路研修会を年間計画の中に位置付け、模試分析等による生徒の学力診断結果を教科内及び教科間で検証し、進路目標実現に向けた指導の改善・充実に関わり付けていく。放課後や長期休業中等の授業時間以外での講習等の指導を更に充実させ、進学に向けた指導を充実させる。

### (3) 生活指導

「至誠一貫」・「規律ある自由」の精神のもと、学校生活のあらゆる場や機会において自己指導能力の育成を図り、生徒の規範意識や人間性を高める。文京生であることへの自覚と誇りをもたせ、自律的な態度・思いやりの心を育成していく。近年、高校生や社会において発生している事故や事件等の情報を的確にとらえ、生徒の行動や心理に対する想定範囲を広げ、事故や問題行動等の未然防止の視点で、予防的指導を更に進めていく。

### (4) 特別活動・部活動

「文武両道」の実現を図り、学習面だけでなく、特別活動や部活動にも一生懸命に取り組む生徒を育成する。勉強と部活動を両立させるためにも、部活動に関する活動方針を遵守し、効率的・効果的な部活動を実践する。生徒が主体的に取り組み、事故無く、成就感や自己肯定感を得られるような指導を進めていく。ひたすらに実践した結果が大会等の成績に結びつくよう、高い目標を維持・継続させるとともに、結果だけがすべてではなく、その過程において、成長できることを実感できる指導を行っていく。

### (5) 健康・安全

感染症の流行に留意しながら、生徒の命や健康を守り安全・安心を最優先とする教育活動を引き続き進める。学校不適應や中途退学の未然防止及び自殺予防に対する指導や対策を進め、スクールカウンセラー2名を有効に活用した教育相談体制や、定期的で開催する教育相談委員会を機能させ、生徒個々の状況把握と一人一人に応じたきめ細かい指導を組織的

に進めていく。防災教育や安全指導を徹底し、災害に対する指導や事故の未然防止を図る。

(6) 募集・広報活動

本校の教育活動の実践内容・成果を多くの人に知ってもらうことを基本とし、前例にとらわれず SMS を効果的に活用した広報活動や募集対策を一層充実させる。授業見学、体験授業、出前授業などの形態を工夫し、質の高い教科指導の実態や真面目に取り組む文京生の姿に触れることができる機会を設ける。説明会等で常に伝えている「入りたい学校、入って自分を伸ばせる学校、入って自分の将来の夢をかなえられる学校」として本校を選ぶことができるよう積極的に情報発信をし、入学者選抜の応募倍率の更なる向上と不本意入学の防止を図る。引き続き、ホームページの更新を迅速かつ定期的に行い、本校の教育活動の内容や成果を積極的に外部に発信する。

(7) 学校経営・組織体制

東京都教育委員会からの指定や支援を受け、教育活動の充実・発展に全教職員が主体的に取り組むとともに、法令・規則等に基づく組織的な学校運営を更に進め、引き続き諸課題の解決・学校事故の未然防止に取り組んでいく。